



# 山形県感染症発生動向調査

平成30年第40週(10月1日～10月7日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)  
TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486  
URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>  
2018年10月10日 発行

## <定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~40週
	第39週	第39週	第40週	増減	第39週	第40週	増減	第39週	第40週	増減	第39週	第40週	増減	第39週	第40週	増減	
<b>インフルエンザ定点</b> (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	795 0.16	3 0.06	5 0.10	△	2 0.10	2 0.10					1 0.10	3 0.30	▲				16187
<b>小児科定点</b> (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	5378 1.70	126 4.20	97 3.23	▼	56 4.31	51 3.92	▼	3 1.00	1 0.33	▽	57 9.50	35 5.83	▽	10 1.25	10 1.25		1170
咽頭結膜熱	739 0.23	6 0.20	7 0.23	▲	2 0.15	3 0.23	△		1 0.33	△	4 0.67	3 0.50	▽				714
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3918 1.24	57 1.90	57 1.90		34 2.62	26 2.00	▽	3 1.00	2 0.67	▽	15 2.50	15 2.50		5 0.63	14 1.75	△	3740
感染性胃腸炎	9458 2.99	76 2.53	78 2.60	▲	29 2.23	32 2.46	▲	5 1.67	3 1.00	▼	30 5.00	36 6.00	▲	12 1.50	7 0.88	▼	5958
水痘	733 0.23	6 0.20	6 0.20		2 0.15		▽	2 0.67	1 0.33	▽		1 0.17	△	2 0.25	4 0.50	▲	479
手足口病	2709 0.86	10 0.33	17 0.57	△	7 0.54	15 1.15	△	1 0.33		▽				2 0.25	2 0.25		1218
伝染性紅斑	880 0.28	7 0.23	14 0.47	△		2 0.15	△	2 0.67	4 1.33	▲	3 0.50	6 1.00	△	2 0.25	2 0.25		370
突発性発しん	1199 0.38	8 0.27	18 0.60	△	2 0.15	3 0.23	△		3 1.00	△	6 1.00	7 1.17	△		5 0.63	△	684
ヘルパンギーナ	2667 0.84	71 ◎2.37	77 ◎2.57	△	7 0.54	22 1.69	△	1 0.33		▼	47 ◎7.83	46 ◎7.67	▼	16 ◎2.00	9 1.13	▼	2764
流行性耳下腺炎	383 0.12	3 0.10	3 0.10		1 0.08	1 0.08		1 0.33		▽	1 0.17	1 0.17			1 0.13	△	124
<b>眼科定点</b> (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	3 0.00																
流行性角結膜炎	707 1.01																93
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3 0.01																20
クラミジア肺炎	4 0.01																
マイコプラズマ肺炎	121 0.25	4 0.40		▽	3 0.75		▼							1 0.33		▽	114
細菌性髄膜炎	5 0.01																8
無菌性髄膜炎	18 0.04																6

## <全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	2				
	疑似症患者			1		
腸管出血性大腸菌感染症	患者	1				型別: O157 VT型不明。
	無症状病原体保有者				1	型別: O血清群不明 VT2。
百日咳	患者	1				百日咳ワクチン接種歴: 4回。小児。

## <通信欄>

※インフルエンザの迅速キットによる型別は、A型が5件です。集団発生の報告はありません。  
※トピックスで、RSウイルス感染症、腸管出血性大腸菌感染症について掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ					1	1	1					1			
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
		1													5
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	8	17	33	18	12	3	4			1				1	97
咽頭結膜熱		2	2		2	1									7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	1	7	11	8	7	7	6	2	5		1	57
感染性胃腸炎		11	16	9	8	6	4	3	4	4	2	10	1		78
水痘						2	1	2	1						6
手足口病			1	7	2	3	2	1				1			17
伝染性紅斑		1	1		1	2	1	1	3	1		2	1		14
突発性発しん		10	7	1											18
ヘルパンギーナ		4	29	18	10	8	5	1	1		1				77
流行性耳下腺炎			1				1		1						3

<平成30年8月 月報>

2018年9月26日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～8月	
	7月	8月										
<b>STD定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	18	18	12	13			4		2	5	149
	定点当り	1.80	1.80	3.00	3.25			2.00		0.67	1.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	3		1	1		4	2	1		61
	定点当り	0.60	0.30		0.25	1.00		2.00	1.00	0.33		
尖圭コンジローマ	報告数	4	4	2	4			1		1		27
	定点当り	0.40	0.40	0.50	1.00			0.50		0.33		
淋菌感染症	報告数	2	7		2					2	5	26
	定点当り	0.20	0.70		0.50					0.67	1.67	
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	8	4			1	2	2		5	2	59
	定点当り	0.80	0.40			1.00	2.00	1.00		1.67	0.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	20	22	10	10		1	1	1	9	10	149
	定点当り	2.00	2.20	2.50	2.50		1.00	0.50	0.50	3.00	3.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

RSウイルス感染症 情報

RSウイルス感染症の県平均定点当たり報告数は3.23人で、依然として報告数の多い状況が続いています。

・第40週 定点当たり報告数(山形県:3.23人)  
村山:3.92人 最上:0.33人 置賜:5.83人 庄内:1.25人

※警報・注意報の基準値は設定されていません。

<RSウイルス感染症とは>

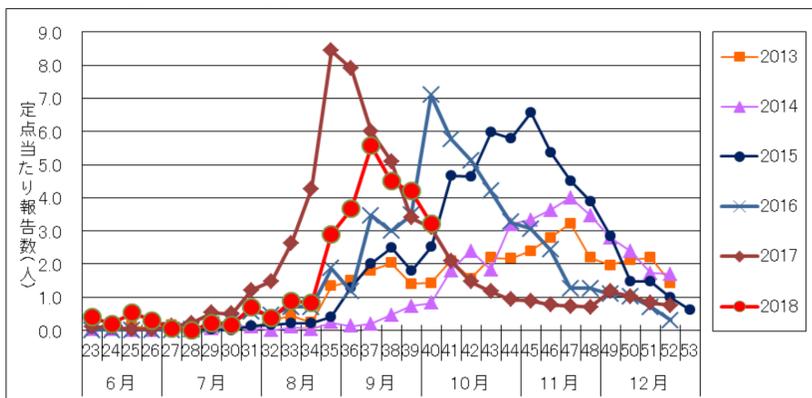
RSウイルス感染症は、乳児によくみられる急性呼吸器感染症です。潜伏期間は4～6日、症状は軽い風邪様の症状から肺炎まで様々です。2歳までにほぼ100%の人が感染し、生涯にわたり何度も感染と発症を繰り返します。

初めて感染した場合は症状が重くなりやすく、特に新生児や生後6ヶ月以内の乳児は注意が必要です。

感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染、ウイルスがついている物を介しての接触感染などがあります。予防法としては、手洗いの励行、マスクの着用、ウイルスの付いている物の消毒が有効です。



<年別 定点当たり報告数の推移(山形県)>



腸管出血性大腸菌感染症 情報

第40週に、腸管出血性大腸菌感染症の患者が1名(村山地区、O157 VT型別不明)、無症状病原体保有者が1名(庄内地区、O型別不明 VT2)報告されています。

・感染者の内訳 (平成30年第1週からの合計)

	O8	O26	O103	O111	O115	O121	O157	OUT※	総計
村山地区		4	2	1	1		11	2	21
最上地区							1		1
置賜地区	1	2		1			11	1	16
庄内地区						4		1	5

※OUT: O-antigen untypeable

腸管出血性大腸菌感染症とは

ベロ毒素を産生する大腸菌(腸管出血性大腸菌)に汚染された食べ物を経口摂取することによって起こります。3～5日の潜伏期間の後、激しい腹痛とともに頻回に水様便が出るようになり、のちに血便となります。溶血性尿毒症症候群や脳症を合併し、重症化する場合があります。

原因となる食品は肉や野菜など様々です。最も多く発生するのは夏ですが、秋も発生の多い季節です(図1)。

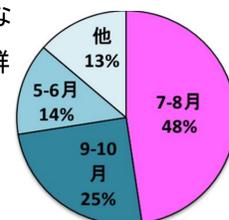


図1: 月別報告数(2012-18年)

予防のポイント

- ① 菌をつけない  
手洗いを徹底し、清潔な布巾や調理器具を使いましょう。
- ② 菌を増やさない  
食品はすぐに冷蔵庫に保存し、常温に放置しないようにしましょう。
- ③ 菌をやっつける  
食品の加熱は中心まで、75℃、1分以上加熱しましょう。

